

学習指導資料

「学習評価の事例集」（宮城県版）

高等学校

第2編（各教科）

外国語

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 3~12)

事例1 キーワード 複数単元を通した「話すこと[やりとり]」における各観点の評価、指導と評価の計画からその評価まで

科目 英語コミュニケーションⅠ

単元 聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝え合う

- ・当該科目の複数の単元を通した目標、評価規準、複数単元の指導と評価の計画及び1つの単元の指導と評価の計画を示している。
- ・パフォーマンステストのテスト内容、指示内容、実施方法、採点の基準、生徒の発表及び採点の結果を示している。
- ・「話すこと [やりとり]」の指導について、「言語活動を通して資質・能力を育成する」という観点から、パフォーマンステストに至るまでに行う指導及びパフォーマンステスト実施後に考えられる指導、特に「C」評価の生徒への支援の方法を示している。

(P. 13~18)

事例2 キーワード 「書くこと」における「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価

科目 英語コミュニケーションⅠ

単元 学校の制服の良い点・悪い点について、自分の考えや意見を書いて伝える

- ・当該科目の単元における目標、評価規準、指導と評価の計画を示している。
- ・「書くこと」における「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための課題の内容、生徒の英作文作品例及び評価の結果を示している。
- ・課題の評価によって「C」評価の生徒に対する事後指導の例を示している。

(P. 19~24)

事例3 キーワード 複数単元を通した「話すこと（発表）」における各観点の評価、指導と評価の計画からその評価まで

科目 論理・表現Ⅰ

単元 聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝える

- ・当該科目の複数の単元を通した目標、評価規準、複数単元の指導と評価の計画及び1つの単元の指導と評価の計画を示している。
- ・パフォーマンステストのテスト内容、実施方法、採点の基準、生徒の発表及び採点の結果を示している。
- ・「話すこと（発表）」の指導について、「言語活動を通して資質・能力を育成する」という観点から、パフォーマンステストに至るまでに行う指導及びパフォーマンステスト実施後に考えられる指導を示している。

以上，3つの事例及び『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）（令和3年8月）に掲載されている5つの事例が，いずれの観点及び領域を扱っているかを図で示すと次のようになる。

英語コミュニケーション I

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	国研 事例 2		宮城県 事例 1	国研 事例 1	宮城県 事例 2
思考・判断・ 表現					
主体的に学習に 取り組む態度	国研 事例 5				

論理・表現 I

	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	国研 事例 3	宮城県 事例 3	国研 事例 4
思考・判断・ 表現			
主体的に学習に 取り組む態度	国研 事例 5		

外国語科 事例1（英語コミュニケーションⅠ）

キーワード 複数単元を通した「話すこと[やりとり]」における各観点の評価、指導と評価の計画からその評価まで

単元名

聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを理由とともに話して伝え合う

内容のまとめ

「話すこと[やりとり]」ア、イ

1 「英語コミュニケーションⅠ」における「話すこと[やりとり]」ア及びイの目標

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。

2 複数単元を通した「話すこと[やりとり]」における目標及び評価規準

(1) 目標

日常的な話題（日常生活で出会う様々な物語・逸話）や社会的な話題（世界のリーダー）について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話して伝え合うことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。・日常的な話題（日常生活で出会う様々な物語・逸話）や社会的な話題（世界のリーダー）についての情報や考えを、基本的な語句を用いて、理由とともに話して伝え合う技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題（日常生活で出会う様々な物語・逸話）や社会的な話題（世界のリーダー）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句を用いて、理由とともに話して伝え合っている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、日常的な話題（日常生活で出会う様々な物語・逸話）や社会的な話題（世界のリーダー）についての情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句を用いて、理由とともに話して伝え合おうとしている。

3 指導と評価の計画

(1) 指導上の留意点

本事例では、2(1)で示した目標を達成するために、複数の単元(1, 2)を通して「話す

こと[やりとり]」の指導と評価を行う。指導については、特に次の点に留意する。

- ・単元1では自分が得た情報を相手に説明する言語活動を、単元2では自分の考えを理由とともに述べる言語活動を行うことによって、複数の単元を通して、様々な言語の働きを関連付けた指導を行う。
- ・音声や会話をする際の態度（アイコンタクトや間の取り方など）については、継続的に指導を行う。
- ・聞いたり読んだりして得た情報について、意見や感想を述べ合ったり質疑応答したりする「話すこと[やりとり]」の言語活動を継続的に行う。あわせて、ペアやグループで調べたことや考えたことを話して伝える発表の活動を行う。

(2) 各単元の指導と評価の計画

単元	時間	目標 (■) 及び主な言語活動等 (●)	評価
1	1 ～ 8	<p>■相手が発言をしている場面で、その発言内容を基に、質問したり自分の考えなどを伝え合ったりして、会話を継続させることができる。</p> <p>●物語や逸話を話す際のヒントを紹介したオンライン記事を読み、話をする際の効果的な方法についてペアやグループで整理・共有する。</p> <p>●記事の内容をもとに、時系列を表す表現（完了形等）を活用し、自らの「体験談」について聴衆の興味を引くようなスピーチを行う。</p> <p>●スピーチの後に、相手の発話内容について質問したり、考えやコメントなどを伝え合ったりする。</p>	<p>・本単元の最後の授業（第8時）における言語活動において、評価規準に照らした活動の観察を行う。</p> <p>・単元1, 2を通じて指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するために後日パフォーマンステストを行う。（詳細は後述）</p>
2	9 ～ 16 (含パフォーマンステスト)	<p>■人物を紹介する場面で、知っていることや調べた内容を基に、情報や自分の考え・気持ちを、理由を含めて伝え合うことができる。</p> <p>●優れたリーダーシップを持つ人物に関する文章などに触れ、経歴や成し遂げたことについてペアやグループで時系列に沿って整理・共有する。</p> <p>●複数の人物について同様のことを行い、リーダーシップの要素について考えたことを理由とともに話して伝え合うことを繰り返す。</p> <p>●ある人物に関する初見の情報を基に、リーダーシップの要素について、理由とともに伝え合う。</p>	<p>・本単元の最後の授業（第16時）における言語活動において、評価規準に照らした活動の観察を行う。</p> <p>・単元1, 2を通じて指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するために後日パフォーマンステストを行う。（詳細は後述）</p>

(3) 単元2の指導と評価の計画

以下の表中「○」が付されている時間は全員の学習状況を記録に残す。なお、○が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況（例：聞いたり読んだりした語句や文、表現等を効果的に活用して話したり書いたりしているか、考えや意見を理由とともに話しているか）を確認し、必要に応じて記録をすることが重要である。確認結果は、単元や学期末などの評価を総括する際に参考にすることができる。

時間	ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■世界中の優れたリーダーシップを持つ人物に関する写真や音声に触れ、その人物たちの経歴や成し遂げたことについて情報や考えを共有する。</p> <p>①優れたリーダーシップを持つ人物について知っていることを、ペアで伝え合う。</p> <p>②優れたリーダーシップを持つ人物のうち次回以降の授業で扱う一人を取り上げ、現段階で知っていることや、さらに知りたいことをペアで伝え合う。</p>	生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して	態	<p>・授業の目標を達成できたかどうか、自己評価シートに記入させるなど、単元を通して、学習の振り返りを適宜行わせる。</p>
2 〜 5	<p>■優れたリーダーシップを持つ人物の一人に関するオンライン百科事典の文章を読み、人物の経歴や成し遂げたことなどの情報を時系列に沿って整理しながら、リーダーシップについて考えたことを話して伝え合う。</p> <p>①教科書の文章を読み、その人物に関する情報を時系列に沿って表やタイムラインにまとめる。</p> <p>②その人物はどのようなリーダーシップの要素を持っているのか、ペアで考えを伝え合う。</p> <p>③ペアを変えて、②の活動を何度も行う。</p>				

6	<p>■前時とは別の人物に関するやや短めの文章を聞き、人物の経歴や成し遂げたことなどの情報を時系列に沿って整理しながら、リーダーシップについて考えたことを話して伝え合う。</p> <p>①前時とは別の人物を取り上げた教科書中の文章を聞き、その人物に関する情報を時系列に沿ってイラストやタイムラインにまとめる。</p> <p>②その人物はどのようなリーダーシップの要素を持っているのか、ペアで考えを伝え合う。</p> <p>③ペアを変えて、②の活動を何度も行う。</p>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>				
7	<p>■優れたリーダーシップについて書かれた初見の文章を読み、それを持っていると思われる身近な人物について、そのように考える理由を伝え合う。</p> <p>①優れたリーダーシップに必要なスキルについて書かれた雑誌の記事を読み、内容をクラスで確認する。</p> <p>②自分が知っている人物でそのスキル（の一部）を持っていると考える人物について、考えとその理由を伝え合う。</p>					
8	<p>■これまで扱ったのとはまた別の人物に関する初見の文章を読み、その情報に触れながら、考えたことや感じたこと、その理由などを即興で伝え合う。</p> <p>①文章の情報から経歴に関する情報を「プロフィールカード」としてまとめる。</p> <p>②「プロフィールカード」をもとに、その人物がどのようなリーダーシップを持っていると考えられるか、なぜそう考えるのか、即興で質疑応答をしながらペアで伝え合う。</p> <p>③ペアを変えて、何回か行う。</p> <p>④4人グループを作り、一人が司会者を務め、残りの3人が考えを述べ合う。</p> <p>⑤グループのメンバーを変えてもう一度行う。</p> <p>⑥自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>					<p>・本単元の評価規準に照らして観察し、本単元で学習した語句や表現の活用、会話の始め方・続け方・閉じ方、また、会話をする際の態度について確認をし、適宜フィードバックを行う。</p>
後日	パフォーマンステスト	○	○	○		

4 パフォーマンステストについて

「4 指導と評価の計画」で示した後日行うパフォーマンステストについて、以下に示す。

(1) テスト内容

教科書で扱った以外の優れたリーダーシップを持つ人物に関する写真と簡単な経歴が英文で書かれたプロフィールカードを読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。

(2) 指示内容

次の指示文が印刷された用紙を準備し、テスト前に配布する。

あなたが通っている高校は年に数回、海外の高校とオンラインで交流をしています。その中で、生徒会のメンバーであるあなたは、交流をしている高校の生徒会のメンバーと、優れたリーダーシップについて意見交換をすることになりました。あなたが考えるリーダーシップを述べるとともに、議論をより深めるために用意したある人物の「プロフィールカード」に基づいて、その人物が優れたリーダーと考えられるかどうか、なぜそう思うのか、3人でやり取りしてください。読む時間と考える時間は合わせて2分です。

[Wakata Koichi (1963-)]

- Japanese astronaut
- The first Japanese commander of the International Space Station (ISS).
- Experienced four space flights including two long-duration stays on the ISS.
- Named as Japanese Aerospace Exploration Agency (JAXA) Vice President in April 2018.

(3) 実施方法

- ① 3人ずつランダムでその場で指名し、教室前の廊下に置いた椅子に座らせる。
- ② 「プロフィールカード」を手渡し、準備時間を2分取る。どの人物のカードになるかはくじ引きで決める。
- ③ パフォーマンスの時間は3分程度とする。
- ④ 生徒のパフォーマンスの様子を見ながら、採点の基準に沿ってその場で評価を行う。
※生徒に採点の基準を事前に提示する。

(4) 採点の基準

単元を通して指導したことを踏まえ、次の採点の基準によって評価する。「思考・判断・表現」については、3つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

○「思考・判断・表現」についての3つの条件

条件1：読んだ英文の情報に触れている。
 条件2：自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
 条件3：相手に質問する、コメントを加える、話題を広げるなどしながら対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	コミュニケーションに支障のある誤りがほぼなく、適切な英文で話すことができる。	自分の考えを詳しく述べたり、相手に伝わるような表現で言い換えたりしながら、3つの条件を満たしてやりとりしている。	自分の考えを詳しく述べたり、相手に伝わるような表現で言い換えたりしながら、3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	3つの条件を満たしてやりとりしている。	3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。
c	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない	「b」を満たしていない

(5) 生徒の発表及び採点の結果の例

【例1】

ア) 生徒のやりとり例

Student A: What is leadership? What do you think, B? [StA/条件3]

Student B: I think leadership is courage. So, I think Mr. Wakata is a good leader.

Student C: What do you mean? [StC/条件3]

Student B: Well, according to the profile card, he has experienced four space flights. [StB/条件1] Space flights are very tough, but he overcame them with his courage. That's why I think he is one of the great leaders in the world.[StB/条件2]

Student A: Sounds great! Well, in my opinion, leadership means trust, and considering this, I think he is a good leader. [StA/条件1]

Student B: Ah-huh. Can you tell me more about it? [StB/条件3]

Student A: Sure. His profile card says that he became the JAXA's Vice President in 2018. To become a vice president, what do you need?

Student C: Umm...

Student A: We can't become a vice president by ourselves. He must have been respected and trusted by people around him and as a result, he was chosen for that position. So, I think he is a wonderful leader.[StA/条件2]

Student C: I see. Your idea ... good! Well, I believe leadership is love. In this sense, he is a

nice leader.

Student A: Sounds interesting. What do you mean by “love”?

Student C: Umm... in my opinion, love means think other people’s life. He ... the first Japanese commander of the ISS. [StB／条件 1] In space, I think, he have to give many advice to astronauts to protect their life. I guess, he think life is the most important. So, I think he is a good leader.[StB／条件 2]

Student B: Wow, you have a point there! [StB／条件 3] ...

イ) 採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student A	a コミュニケーションに支障のある誤りがほぼなく、適切な英文で話すことができる。	a 自分の考えを詳しく述べたり、相手に伝わるような表現で言い換えたりしながら、3つの条件を満たしてやりとりしている。	a 自分の考えを論理的に述べながら、3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。
Student B	a コミュニケーションに支障のある誤りがほぼなく、適切な英文で話すことができる。	b 3つの条件を満たしてやりとりしている。	b 3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。
Student C	b 誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	a 自分の考えを詳しく述べたり、相手に伝わるような表現で言い換えたりしながら、3つの条件を満たしてやりとりしている。	a 自分の考えを論理的に述べながら、3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。

Student A については、使用している英文が適切なものであり、**he became the JAXA’s Vice President** と平易な表現への言い換えるなど工夫が見られたため、全て「a」評価とした。Student B については、使用している英文が適切であったものの、Student A のような工夫が見られなかったため「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を「b」評価とした。Student C については、動詞が欠如していたり、動詞の形が適切でない部分が見られたりと、コミュニケーションの上で大きな支障にはなっていないが、一部に誤りが見られたため「知識・技能」を「b」評価とし、一方で、**commander** の業務について具体的な情報を付け加えているため、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を「a」評価とした。

【例 2】

ア) 生徒のやりとり例

Student D: Do you think Wakata Koichi is good leader? [StD/条件 3]

Student E: Yes, yes. Good leader.

Student F: Yes, good leader... Ahh..

Student E: I talk. OK?

Student D: OK.

Student E: I think leadership is ...strong. Write, in profile card,“the first Japanese commander of the International Space Station.” [StE/条件 1] Commander ... mission clear ... great and strong, so I think... good leader.[StE/条件 2] How about you, D? [StE/条件 3]

Student D: Umm, yes, your idea, good. I think leadership is respect, and he is good leader. In profile card, Mr. Wakata ... named as JAXA's Vice President in 2018. [StD/条件 1]

Student E: “Vice President”? What?

Student D: Vice President mean 副社長 in Japanese. He ... respected by many people, so he is vice president now. So, I think he is good leader.[StD/条件 2] What do you think, F? [StD/条件 3]

Student F: Ahh, in my opinion, leadership is ... kind. Kind to other people. Umm, I don't know ... he is good leader. He ...experienced four space flights including two long-duration stays on the ISS... [StF/条件 1] Four space flights is, I think, very difficult, but his character, I don't know. So, I can't say he is good leader.[StF/条件 2]

イ) 採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student D	b 誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	b 3つの条件を満たしてやりとりしている。	b 3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。
Student E	c コミュニケーションに支障がある誤りが散見される。	b 3つの条件を満たしてやりとりしている。	b 3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。
Student F	b 誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	c 条件3（相手に質問したりコメントしたりする）を満たしていない。	b 3つの条件を満たしてやりとりしようとしている。

Student D については、動詞が欠如していたり、動詞の形が適切でない部分が見られたりと、コミュニケーションの上で大きな支障にはなっていないが、一部に誤りが見られたため「知識・技能」を「b」評価とし、自分の意見を詳細に述べたり、言い換えをしたりといった工夫が見られなかったため「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を「b」評価とした。

Student E については、主述関係が成立していない英文が多く、コミュニケーションの上で支障があると判断し「知識・技能」を「c」評価とした。Student F については、「思考・判断・表現」の3つの条件のうち、「条件3：相手に質問する、コメントを加える、話題を広げるなどしながら対話を継続している」が見られないため、「c」評価とした。一方で、発話の分量から、自分の考えを積極的に表現しようとする姿勢が見られるため、「主体的に学習に取り組む態度」を「b」評価とした。

(6) 「c」評価の生徒への支援

・ Student E に対して：

授業の中で主述関係が成立していない英文を発した場合に、“Ah, you want to say ~, right?”などと、主述関係が正しく構築されている文に修正し投げかけるとともに、それを教師の後に続いて繰り返させる。また、授業中に、黒板に誤った英文を書き、どのように修正したらよいかをクラス全体に投げかけ、適切な英文を引き出すような明示的な指導も行う。

・ Student F に対して：

会話を続けたり、相手に話題を振ったりする際に使う様々な表現（How about you?であったり、Sounds good.など）を実際の会話で使えるように、授業の中でくり返し確認し、活動

の中に盛り込んでいく。あわせて、相手に質問をしながら会話を続けていく力も育てる必要があるため、様々な種類の英語の質問を作り、それをもとに会話を広げていく活動を授業に取り入れ、その授業中に疑問詞などのヒントを与えながら支援をしていく。

外国語科 事例2 (英語コミュニケーションI)
 キーワード 「書くこと」における「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価

単元名
 学校の制服の良い点・悪い点について、自分の考えや意見を書いて伝える

内容のまとめ
 「書くこと」ア, イ

1 「英語コミュニケーションI」における「書くこと」ア及びイの目標

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

2 単元の目標と評価規準

(1) 目標

日本と海外の学校の制服について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、制服の良い点・悪い点を整理し、賛成または反対の立場から、論理性に注意しながら自分の考えを複数の段落で詳しく書いて伝えることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] That's why や because など、理由を述べる表現の使い方を理解している。 [技能] 学校の制服に賛成か反対かについて、自分の意見を理由とともに書いて伝える技術を身に付けている。	自分の意見を読み手によく理解してもらえるように、制服の良い点と悪い点について、読んだり聞いたりしたことを活用しながらまとめ、自分の意見や主張を論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	自分の意見を読み手によく理解してもらえるように、制服の良い点と悪い点について、読んだり聞いたりしたことを活用しながらまとめ、自分の意見や主張を論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えようとしている。

(3) 本単元の課題

生徒の状況や、言語活動の目的や場面等を鑑み、以下のような課題を与えることが考えられる。

日本と海外の学校の制服について教科書の文章を読み、次の質問に英語で答えなさい。ただし、下の条件ア～ウを満たすように書くこと。

Question: Do you think that school uniforms are necessary? Or do you think it is not necessary? Give examples from Japan and other countries, compare the good and bad points of school uniforms, and write down your opinion.

〈条件〉

- ア 賛成・反対の立場を明確にすること。
- イ 学校の制服の良い点または悪い点の具体例を根拠として考えを述べること。
- ウ 論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えること。

3 指導と評価の計画

(1) 指導上の留意点

本事例では、「書くこと」を取り上げていることに鑑み、以下の「指導と評価の計画」では、「書くこと」の指導に焦点を当てている。表中「○」が付されている時間は、基本的に全員の学習状況を記録に残す。なお、「○」が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、論理の構成や展開を工夫して意見や主張を書いている様子など、生徒の学習状況を確認することは重要である。ICTを活用し共有ドライブ等を利用して生徒に授業ごとに英作文を保存させたり、文書の変更履歴を残させたりすることで、学習の過程を確認することができ、単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができる。

(2) 指導と評価の計画

時間	ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
1	<p>■単元の話題（日本と海外の学校の制服）に対する生徒の関心・興味を喚起するとともに、単元の目標を確認する。</p> <p>■教科書本文から必要な情報を読み取り、読み取った内容を要約して読み手に伝わる文を書く。</p> <p>① 教科書本文を読む前に自分の学校の制服が好きか嫌い、どうしてそう思うのかを書く。</p> <p>② クラス全体で、学校の制服について書かれた教科書の文を読み、読んだ内容を要約して書く。</p> <p>③ 概要を捉えるために、本文内容を表にまとめたり、マッピングを作成したりする。</p> <p>④ 要点を捉えるために、タイトルから予想したり、各段落にタイトルをつけて比較したりする。</p> <p>⑤ 要約した内容をペアやグループで読み合い、要約として十分な内容が含まれているか意見を出し合って校正する。</p> <p>⑥ 校正した文章をもとに、自分の考えをクラスで発表する。また、発表した内容についてQ&Aを行う。</p>		<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。</p>		<p>・単元を通して、英文の推敲や、他の生徒との英文の共有のことを考え、ICTを活用する。</p> <p>・単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。</p>

2 3 4	<p>■教科書本文の要点を捉え、内容を要約して読み手に伝わる文を書く。</p> <p>①本文を読む前に内容を予測し、予測した内容を簡潔に書き出す。</p> <p>②第1時の②～⑥の活動に繰り返し取り組む。 〈展開例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “Many schools in United States have a dress code.” という文から始まる段落の内容を要約する。 ・ dress code の具体的な例を調べて “Acceptable” なものと “Not acceptable” なものを表にまとめる。 ・ まとめた内容をペアやグループで発表しあう。また、発表した内容について Q&A を行う。 	<p>毎時間必ず行う。</p> <p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは</p>					
5	<p>■教科書本文のテーマについて自分の意見や主張を書く。</p> <p>■意見や主張を複数の段落で詳しく述べる方法を学ぶ。</p> <p>①教科書本文の内容や、自分で調べた内容を基に、学校の制服の長所や短所について各自で書く。</p> <p>②①で書いた内容について、ペアやグループで意見を伝え合う。</p> <p>③学校の制服のメリット・デメリットを整理して意見や主張を述べるようにする。</p> <p>④③を踏まえて、自分の意見・主張の理由をトピック・センテンスとして書き、それに続けて段落を書く。 〈トピック・センテンスの例〉</p> <p>I'm for school uniforms because we can behave responsible high school students.</p>						
6	<p>■第5時の④を基に各自原稿を書き上げる。</p> <p>■グループやクラスで原稿を読み合い、良い作品を選ぶ。</p> <p>①4人グループで、互いの作品を読み合い、意見や主張を最もわかりやすく伝えている作品を選ぶ。</p> <p>②グループで選ばれた作品を教室内に掲示したり、オンラインで共有したりしてクラス全体で読み合う。</p> <p>③クラスで最もわかりやすく伝えている英文を複数選び、内容や表現の良い点について確認する。</p> <p>④単元目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>						
後日	作品提出（制服についてのレポート）及びペーパーテスト（制服について賛成・反対の意見を書かせる設問）	○	○	○			

4 評価方法について

(1) 作品の採点

「3 指導と評価の計画」で示した評価の内容について、以下に示す。「知識・技能」については、誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文で書けていれば「b」, 「思考・判断・表現」につい

では、2 (3) 「本単元の課題」の三つの条件を全て満たしていれば「b」とする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現の選択に優れ、理解しやすい英文を用いて書いている。	三つの条件を全て満たした上で、自分の授業経験や日本と海外との比較を効果的に示しながら書いている。	三つの条件を全て満たした上で、自分の授業経験や両者の比較を効果的に示しながら書こうとしている。
b	誤りが一部あるが、理解に支障のない程度の英文を用いて書いている。	三つの条件を全て満たして書いている。	三つの条件を全て満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

(2) 生徒の発表及び採点の結果の例

※下線部 (ア) ~ (ウ) は「条件」を満たす部分を示している。また、各生徒の作品例には、綴りや文法の誤り等を含む。

【生徒A】

ア) 作品例

I agree with school uniform. (ア)

First, (ウ) we can show that we are high school students by wearing uniform. (イ) Many high school students will act well if they know that they are known to people around them as high school students.

Second, (ウ) having school uniform can save you time choosing clothes every day. (イ) My school doesn't have uniform, and it takes time to choose clothes every morning. If we have school uniform, we can save time and use that time to do other things.

For these reasons, (ウ) I believe that uniform makes us know our responsibility and give us more time to have a more high school life.

イ) 採点の結果

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
b	b	b
綴りの誤りや必要な語句等の不足などはあるが、理解に支障のない程度である。	三つの条件を満たして書いている。	三つの条件を満たして書こうとしている。

【生徒B】

ア) 生徒の発表の例

I'm not uniform. Because uniform is not free. I want free uniform. I wear uniform when I was junior high school. but I am not free. Free is important, so I want to be free. But I have good things about uniform. Uniform is convenient, because you don't have clothes everyday. So I'm not school uniform.

イ) 採点の結果

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
c	c	c
綴りや文構造等の誤りや、必要な語句の不足などがあり、理解に支障がある。	三つの条件（「立場を明確にして、その理由を二つ以上挙げている。」）を満たしていない。	三つの条件を満たしていない。

【生徒C】

ア) 作品例

I am in favor of having uniforms in schools. (ア)

First of all, (ウ) we can show that we are high school students by wearing uniforms. (イ) I believe that many high school students will behave responsibly if they are aware that people around them know that they are high school students.

In Germany, many people are opposed to uniforms because they respect personal liberty. However, I believe that while personal liberty is respected, there might also be the possibility of bullying due to differences in personal clothing. I think school uniforms could help prevent such bullying.

Secondly, (ウ) having uniforms at school saves us time in choosing our clothes every day. (イ) My school doesn't have uniforms, and it takes me a long time to pick out my clothes every morning. If the school had uniforms, we could save time and use the time to study.

For these reasons, (ウ) I believe that uniforms will make us more aware of our responsibilities and give us more time so that we can have a better high school life.

イ) 採点の結果

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	a	a
語彙や表現の選択に優れ、理解するのに支障が全くない。	三つの条件を満たした上で、自らの経験や日本と海外の制服に対する考え方の比較などを具体的に示して書いている。	三つの条件を満たした上で、自らの経験や日本と海外の制服に対する考え方の比較などを具体的に示して書こうとしている。

5 「c」評価の生徒への支援

「内容をまとめるための支援（思考・判断・表現）」、「語彙や表現を身につけるための支援（知識・技能）」を中心に行う。アイデアをまとめるときに使用した思考ツールや下書きの原稿、完成原稿に至るまでの修正原稿などは記録として残し、生徒自身がフィードバックと修正の過程を確認できるようにしておく。具体的には、次のような指導が考えられる。

- ・クラゲチャートやフィッシュボーンチャートなどの思考ツールを活用して、トピックに対する自分の意見、理由、具体例を明確にさせる。

外国語科 事例3（論理・表現Ⅰ）

キーワード 複数単元を通じた「話すこと（発表）」における各観点の評価，指導と評価の計画からその評価まで

単元名

聞いたり読んだりしたことを活用しながら，意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え

内容のまとめり

「話すこと [発表]」ア，イ

1 「論理・表現Ⅰ」における「話すこと [発表]」ア及びイの目標

ア 日常的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，基本的な語句や文を用いて，意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して，話して伝えることができるようにする。

2 複数単元を通じた「話すこと [発表]」における目標及び評価規準

(1) 目標

日常的な話題（災害対策）や社会的な話題（水の問題）について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，基本的な語句や文を用いて，自分の意見を理由とともに話して伝えることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の意見を理由とともに話して伝えるために必要となる語句や文を理解している。 ・日常的な話題（災害対策）や社会的な話題（水の問題）について，自分の意見を理由とともに話して伝える技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうために，日常的な話題（災害対策）や社会的な話題（水の問題）について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，基本的な語句や文を用いて，自分の意見を理由とともに話して伝えている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらうために，日常的な話題（災害対策）や社会的な話題（水の問題）について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，基本的な語句や文を用いて，自分の意見を理由とともに話して伝えようとしている。

3 指導と評価の計画

(1) 指導上の留意点

本事例では、複数の単元（単元1，2）を通して「話すこと[発表]」の指導と評価を行う。また、目標の達成状況を測るためのパフォーマンステストを単元2の指導後に設定する。学習指導要領の目標にある「意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、話して伝えることができる」という部分に着目し、単元1及び2において、提示されているものから1つ選び、その特長や選んだ理由などを分かりやすく話すという言語活動を取り入れ、発表に至るまでに段階的に指導できるようにした。また、パフォーマンステストは単元2の「水問題」から「環境に配慮した生活」へと話題をつなげ、社会的な話題について、生徒が自分事（日常の話題）として考えられるよう計画した。

(2) 各単元の指導と評価の計画

単元	時間	目標（■）及び主な言語活動等（●）	評価
1	1 ～ 5	<p>■防災対策について、防災用品を紹介し、その特長や必要性を理由として示しながら話して伝えることができる。</p> <p>●どのような自然災害が起こるかを考え、自分の家にある防災用品や災害に備えて必要だと思うものについて、ペアで伝え合う。</p> <p>●グループで、どのような防災用品があるのか調べる。その中から必要だと思うものを各自3つ選び、理由とともに伝え合う。</p> <p>●単元末では、最も必要だと思う防災用品を1つに絞り、その特長や必要性、普段から心掛けておくべきことなどを伝え合う。</p>	<p>・本単元の最後の授業（第5時）における言語活動において、評価規準に照らした活動の観察を行う。</p> <p>・単元1，2を通じて指導したことがどの程度習熟・育成されたかを評価するために、後日パフォーマンステストを行う。</p>
2	1 ～ 5	<p>■水の問題について、発展途上国の水問題を解決するための道具を選び、その道具の効果とともにその道具を選んだ理由を話して伝えることができる。</p> <p>●普段の生活でどのくらいの量の水が使われているか予想したり、水のない生活はどうなるかについて考えを伝え合ったりする。</p> <p>●発展途上国の水問題に関する写真を見て、問題点と解決策について情報を伝え合う。</p> <p>●単元末では、問題を解決する道具を1つ選び、その理由や道具の効果などを伝え</p>	<p>本単元の最後の授業でパフォーマンステストを実施し、評価規準に照らした評価を行う。</p>

	合う。 ●水の問題から環境に目を向け、環境に配慮した生活をするために自分ができることを発表する。	
--	---	--

(3) 単元2の指導と評価の計画

以下の表中「○」が付されている時間は全員の学習状況を記録に残す。なお、○が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認することが重要である。その結果は、単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができる。

時間	ねらい (■), 言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
1	■単元の目標を理解する。 ■発展途上国の水問題に対する生徒の興味・関心を喚起する。 ①普段の生活で水がどのくらい使われているか、水がないと生活はどうなるかななどをクラス全体で共有する。 ②なぜハンバーガーに大量の水が使われているかを相手に分かりやすく説明する。 ③1つの商品を作り出すのに大量の水が使われることについて、自分の考えなどを話して伝え合う。	見届けて指導に生かすことは毎時間行う。 一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して、生徒の活動の状況を			
2 3	■発展途上国の水問題について、それを解決する道具の効果を理由とともに伝え合う。 ①発展途上国の水問題に関する写真を見て、何が問題となっているのか予想し、問題点や解決策に関する情報や感想をペアで話して伝え合う。 ②発展途上国の水問題に関する英文を読んで、情報を整理しながら、考えをまとめる。 ③水問題を解決する道具を購入するため、寄付金を呼びかけるポスターを作成し、水問題の現状や道具の効果をまとめる。 ④水問題を解決する道具を1つ選び、その道具の効果や選んだ理由を相手に分かりやすく説明する。ペアを変えて、この活動を何度も行う。				

4	<p>■モデルスピーチを聞いて、単元の目標を再確認し、自分の発表について考える。</p> <p>①水の問題から、環境に配慮した生活について考えを広げ、現在身近にある環境問題をクラス全体で共有する。</p> <p>②教師やALTが環境に配慮した生活について考えていることや解決のために行っていることを説明したスピーチを聞いて、内容をクラスで確認する。</p> <p>③環境に配慮した生活について、グループで意見を出し合い、自分にできることを考える。</p> <p>④モデルスピーチの原稿を読み、スピーチの構成や環境に関わる語句や表現を確認する。</p>	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して、生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。						
5	<p>■モデルスピーチや話し合いを参考に、環境に配慮した生活について、自分の意見をまとめる。</p> <p>①自分が考える環境に配慮した生活について、環境問題の現状や解決に向けて自分ができようことを考え、アウトラインやメモを作成する。</p> <p>②より明確な分かりやすい理由となるよう、アウトラインやメモを活用して、ペアで発表し合う。</p> <p>③ペアを変えて、②と同じ活動を行い、アドバイスや質問を行いながら、発表を改善する。</p>				○	○	○	
6	パフォーマンステスト							○

4 パフォーマンステストについて

「4 指導と評価の計画」で示した評価の内容について、以下に示す。

(1) テスト内容

海外の高校生とオンラインでそれぞれの国の環境問題について説明するという課題を設定する。自分の身近にある環境問題を取り上げ、その現状や自分にできる環境に配慮した生活について、1分半程度で話して伝える。

(2) 実施方法

4人程度のグループに分け、各グループにタブレット端末を配布して、発表を録画する。録画したものを視聴し、採点の基準に照らして評価を行う。採点の基準については、事前に生徒へ提示する。

パフォーマンステストの前の2時間で、モデルスピーチを聞いたり、環境に配慮した生活についてペアやグループで意見を出し合ったりして、自分の意見を整理する時間を設ける。ペアやグループ内でやり取りを行い、発表に関してアドバイスや修正をできるようにする。

(3) 採点の基準

単元を通して指導したことを踏まえ、次の採点の基準によって評価する。「思考・判断・表現」については、3つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

○「思考・判断・表現」についての3つの条件

条件1：自分の身近で起きている環境問題について述べている。
 条件2：その現状から生じる環境へ影響や課題について述べている。
 条件3：環境問題の解決に向けて、自分にできることを述べている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙や表現が適切に使用されている。 ・聞き手にわかりやすい音声等で話している。 	3つの条件を満たした上で、関連した情報を付け加えたり、自分の考えを詳しく述べたりして伝えている。	3つの条件を満たした上で、関連した情報を付け加えたり、自分の考えを詳しく述べたりして伝えようとしている。
b	<ul style="list-style-type: none"> ・多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・理解に支障のない程度の音声等で話している。 	3つの条件を満たして話して伝えている。	3つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

(4) 生徒の発表及び採点の結果の例

【生徒A】

ア) 生徒の発表の例

We have a beautiful sea in our city, and many people enjoy swimming in the ocean in summer. But a lot of marine plastic waste has become a serious problem in our city. Most of the garbage is domestic waste such as plastic bottles. (条件1) Such plastic waste cause death of sea creatures and marine pollution. (条件2) To reduce plastic waste, I always carry my own bottle with me. If you use your own bottle, you can reduce plastic waste easily. (条件3) Now, many kinds of bottles are sold at stores and you can enjoy cute designs. If you use it, you can save money, too. So, I want you to try it.

イ) 採点の結果

「(4) 採点の基準」に沿って、全ての観点で「a」と評価した。

【生徒B】

ア) 生徒の発表の例

In my city, unusual weather is big problem. hot day continue very long, and some people house is damaged by floods because heavy rains in summer. (条件1) I think that global warming is cause this unusual weather. So, to stop this situation, we must reduce greenhouse gases like CO₂. (条件2) I want to try “local production for local consumption.” We say “Chisan-Chisho” in Japanese. It means buying food made in my own city. By buying local foods, we don’t use transport. We don’t use fuel and CO₂. (条件3)

イ) 採点の結果

「(4) 採点の基準」に沿って、全ての観点で「b」と評価した。

【生徒C】

ア) 生徒の発表の例

I often see many garbage on the street in my town. It is very dirty, and it is bad for our environment. (条件1) To reduce the garbage, I will do volunteer activity. I want to try to pick up the garbage once a month as a volunteer. (条件3) I want to keep a beautiful and clean city.

イ) 採点の結果

「(4) 採点の基準」に沿って、「知識・技能」は「b」, 「思考・判断・表現」は「c」と評価した。「主体的に学習に取り組む態度」は、3つの条件を満たして話して伝えることはできなかったが、3つの条件を満たして述べようとしている状況が明らかに見られたため「b」と評価した。

(5) 「c」評価の生徒への支援

- ・身近で起きている環境問題の現状やの解決に向けて、自分にできることを述べることはできたが、現状がどのように環境に影響を与えているのかについて十分に述べることはできなかった。そのため、アイデアをまとめる際に思考ツールを使って具体的に考えさせたり、使いやすい表現を示したりしていく。また、録画したものを自分で見て修正や改善をする機会を設けることも考えられる。

学習指導資料

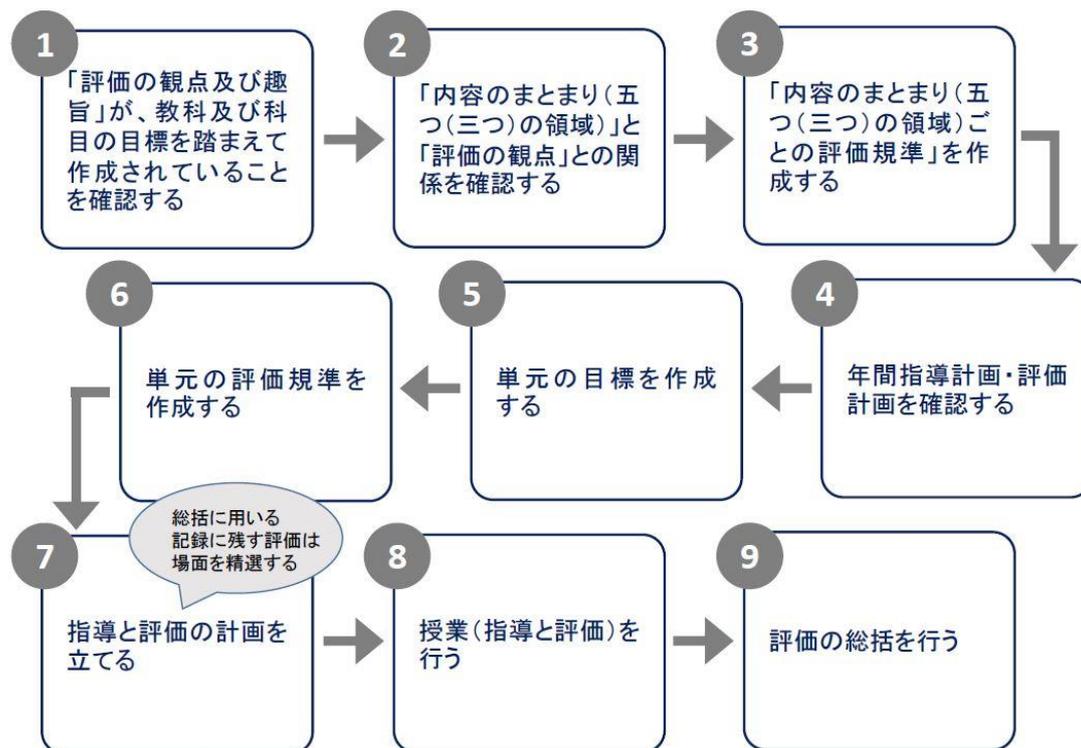
「学習評価の事例集」（宮城県版）

外国語

追加資料

- 1 観点別学習評価の進め方
- 2 「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」
における評価規準について
- 3 パフォーマンステストについて
- 4 「英語コミュニケーションⅠ」及び「論理・表現Ⅰ」の
評価イメージ

1 観点別学習評価の進め方



本事例集においては、各単元を指導するにあたって、上記の「⑤単元の目標を作成する」から「⑧授業（指導と評価）を行う」までの過程を取り上げ、具体的な指導と評価の例を提示している。

「⑨評価の総括を行う」部分については、「第1編 V 観点別学習状況の評価と評定 3 観点別学習状況の評価の評定への考え方（7～8ページ）を参照していただきたい。

なお、各科目の評価については、下記を参考にいただきたい。

<英語コミュニケーション I の評価イメージ例①>

	前期					後期					観点別評価の総括	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	b	b	a	a	b	a	b	a	a	a	A	4
思考・判断・表現	b	b	b	b	b	b	b	a	a	a	B	
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b	b	b	b	b	a	a	a	B	

- ・「英語コミュニケーション I」においては、年間を通じて「五つの領域」×3観点＝15項目を評価する。
- ・評価イメージ例①では、前期と後期ともに15項目を評価し、それを総括した例である。
- ・「聞くこと」「読むこと」・・・ペーパーテスト等の結果
「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」・・・パフォーマンステスト等の結果等により評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、振り返りの記述内容等と活動の観察を参考とする。

<英語コミュニケーション I の評価イメージ例②>

	前期					後期					内容のまとまりにおける観点別評価の総括					観点別評価の総括	評定
	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	b	b	a		b	a	b		a	b	a	b	a	a	b	A	4
思考・判断・表現	b	b	b		b	b	b		a	a	b	b	b	a	a	B	
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b		b	b	b		a	a	b	b	b	a	a	B	

・評価イメージ例②では、

「話すこと [発表]」の評価 : 前期では行わず、後期に行う

「話すこと [やりとり]」の評価 : 前期では行い、後期は行わない

と計画を立てて評価し、総括した例である。

※年間を通じて、「五つの領域」×3観点=15項目の評価を行い、総括すること。

<論理・表現 I の評価イメージ例③>

	前期			後期			観点別評価の総括	評定
	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	a	a	b	a	a	b	A	4
思考・判断・表現	b	b	b	b	b	b	B	
主体的に学習に取り組む態度	b	b	b	b	b	b	B	

・「論理・表現 I」においては、年間を通じて「三つの領域」×3観点=9項目を評価する。

・評価イメージ例③では、前期と後期ともに9項目を評価し、それを総括した例である。

・「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」・・・パフォーマンステスト等の結果等により評価する。

・「主体的に学習に取り組む態度」については、振り返りの記述内容等と活動の観察を参考とする。

<論理・表現 I の評価イメージ例④>

	前期			後期			内容のまとまりにおける観点別評価の総括			観点別評価の総括	評定
	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能	a		b		a	b	a	a	b	A	4
思考・判断・表現	b		b		a	a	b	a	a	B	
主体的に学習に取り組む態度	b		b		a	a	b	a	a	B	

・評価イメージ例④では、

「話すこと [発表]」の評価 : 前期では行わず、後期に行う

「話すこと [やりとり]」の評価 : 前期では行い、後期は行わない

と計画を立てて評価し、総括した例である。

※年間を通じて、「三つの領域」×3観点=9項目の評価を行い、総括すること。

2 「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」における評価規準について

話すこと [やりとり] の評価規準の基本形式 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・(言語材料)の特徴やきまりを理解している。</p> <p>・(話題)について、(内容)を(言語材料)などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>(目的・場面・状況)に応じて、(話題)について、(内容)を伝え合っている。</p>	<p>(目的・場面・状況)に応じて、(話題)について、(内容)を伝え合おうとしている。</p>

○ 「知識・技能」を一体的に評価する。

英語使用が正確であれば、言語材料の知識も有していると判断することができる。このことから、「英語使用の正確さ」を評価することによって、英語を「使うことができる」という「技能」の側面だけでなく、「理解している」という「知識」の側面についても、一体的に評価することができる。

○ 「知識・技能」は、「英語使用の正確さ」を評価する観点である。

ある単元で、「現在完了形」や「受動態」という言語材料が主に扱われていた場合、その単元を評価する際に、「現在完了形」や「受動態」を必ず用いて発話することだけが評価されるわけではない。「現在完了形」や「受動態」を含めて、「生徒が発話で用いている英語が正確に使用できているか」という観点を評価するものである。

○ 「思考・判断・表現」は、「内容面の適切さ」を評価する観点である。

コミュニケーションを行う(目的・場面・状況)を設定することは必須であり、その設定した(目的・場面・状況)において、「生徒が発話した英語が適切であるか」を教員は評価することが求められる。「思考・判断・表現」は、設定された(目的・場面・状況)に見合う適切な内容の発話であるかという観点を評価するものである。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」は、「思考・判断・表現」と対の形となっており、基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価する観点である。

授業中の言語活動やパフォーマンステスト等で実際に見取ることができる規準となるよう「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と対の形となっている。なお、「思考・判断・表現」の評価規準には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを必ず含むものとしている。目的や場面、状況に応じたコミュニケーションを図ろうとするためには、「外国語の背景にある文化に対する理解」や「聞き手・読み手・話し手・書き手への配慮」が必要である。以上のことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を、「思考・判断・表現」の評価規準と対の形として、基本的には一体的に評価する。

※「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、対となる観点であるから、文末表現のみが変わる。

(例) 話すこと [やりとり] の表記

「思考・判断・表現」の文末 . . . ～を伝え合っている

「主体的に学習に取り組む態度」の文末 . . . ～を伝え合おうとしている

3 パフォーマンステストについて

令和3年度教育課程研究集会（外国語部会）に係る課題「単元評価計画（事例集）」（令和3年1月16日付け事務連絡）において、各校からパフォーマンステストの計画例を作成していただいている。各校における観点別評価を行う際に、参考にしていきたい。

英語コミュニケーションIの評価イメージ①

	前期					後期					観点別評価 の総括	評価
	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能												
思考・判断・表現												
主体的に学習に 取り組む態度												

英語コミュニケーションIの評価イメージ②

	前期					後期					内容のまとまりにおける観点別評価の総括					観点別評価 の総括	評価			
	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと					
知識・技能																				
思考・判断・表現																				
主体的に学習に 取り組む態度																				

論理・表現 I の評価イメージ③

	前期			後期			観点別評価 の総括	評価
	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと		
知識・技能								
思考・判断・表現								
主体的に学びに 取り組む態度								

論理・表現 I の評価イメージ④

	前期			後期			内容のまとまりにおける 観点別評価の総括	観点別評価 の総括	評価
	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと	話すこと [やりとり]	話すこと [発表]	書くこと			
知識・技能									
思考・判断・表現									
主体的に学びに 取り組む態度									

【外国語部会作成委員】

鈴木 尚純	宮城県教育庁高校教育課指導主事
作間 偉也	宮城県仙台向山高等学校主幹教諭
根岸 潤	宮城県石巻高等学校教諭
阿部 真弓	宮城県古川黎明高等学校教諭